

四、ミキ先生とともに生きて

お母さんとして

私は昭和二十七年四月、可部女子専門学校本科へ入学致しました。校舎は古市にあり、コの字型に建てられた校舎で、寄宿舎と共用で本科を卒業、可部に移転して、研究科師範科をその後お勤めさせていただきながら、高校へ編入学、教師の資格をとるための勉強と、実の母以上に心配し育てていただきました。まず入学当時の印象、教えにあずかったこと等、昔の思い出から綴って見ます。

西山好江

山県郡芸北町の田舎育ち、当時は進学する生徒は僅かでした。中学校の花本兵三校長先生は、武田学園の教育方針に強い共感をもたれ、専門学校ではあるが、女性の特性をいかし、礼儀作法をきびしく、心の教育をされている学校だから是非にとすすめていただき、入学することになりました。入学式前日、食糧と身のまわりの荷物を、トラックで送ってもらいましたが、道が狭いために、路上におろされてしまいました。その時先生の指導だったのでしようか、二、三人の生徒さんが来られて「入学生の方なら、荷物は私達が運んであげますよ」と言つて下さいました。なんと親切で優しい上級生だろう。中学生の時間にお聞きしていた通り、立派な上級生に出逢いました。私も今日からは、このような生徒になろうと決心しての出発でした。

朝六時起床、朝会、掃除、食事、登校と規則正しい生活でした。登校といいますが、夜の寝室に、食堂にと使った部屋に、長机を並べ変えて、通学生を待つ状態でした。

家族でのんびり、ゆったりとした生活して来た私には、窮屈でしんどくてたまりません。帰省願いを出したところ、五月の連休までは、許可しません、我慢出来ないのか、不平不満があったら言いなさい、と長い時間指導をうけました。炊事当番をすることで、大量の食事が作れるようになること、風呂当番をして大勢の生徒が短時間で入浴できるようにするにはどのようなしたら良いか、体験を通して学ぶようと、寄宿生には昼夜通しての指導をいただきました。

昭和三十二年の火災の後は学校あげて復興に全力投球でした。私達に出来ることは、何でもやろう。寄宿生は放課後、近所の農家へ田植の手伝いに、一休さんやおてもやん等の人形を作って即売する、練はみがき等の日用品を売って利益をいただく、廃品回収をする、あるいは校庭の整地作業、畑仕事、稲作も数年致しました。学校は次第

四、ミキ先生とともに生きて

に發展充実してまいりました。先生は何時も「ありがとうございます。私が貧乏するから皆さんに迷惑をかけるね」とその言葉を聞くたびに、私達の学校だから、皆さんで頑張りましょうと話し合ったものでした。苦しい事ばかりではありません。楽しい思い出もたくさんあります。三滝へ行って飯合炊きをしたこと、ささやかなクリスマス会、すきやき会で先生の歌を聞いたこと等々。

昭和三十八年結婚のため、私は退職いたしました。その節は適切なアドバイスは勿論のこと、嫁入支度の心配までいただいて、お祝いにもらった着物を仕立て、披露宴に手を通させていただきました。お祝辞は長く「中学卒業以来私が育てました。お気に召さぬことがあれば、いつでも帰して下さい」身に余るお言葉、先生に御迷惑をかけるないように、八人家族の中で頑張るのみでした。時折こんなお電話をいただきました。朝六時「おはよう武田です。明後日東京へ行くので、おみやげに裕の着物をもつていつてあげたいので、明日の夕方までに、縫ってちょうだい。表地はあるが裏地がないので先生方が出勤されてから用意してもらうので見計らって来てちょうだい」

なせばなるなさねばならぬ何事も

ならぬは 人の なさぬなりけり

また、「布団を作ってもらいよるんだけど、布が少し足りないので端切があったら寄付してちょうだい。また、手があいとつたら手伝いに来てください」先生からのお電話は、何時も早朝で急なこと、「お母さんから声がかかるといふことは、信頼されとるということ、感謝しなさい」「はい」の一言でした。

現在非常勤で高校に勤めさせていただけますが、先生からの声が聞こえて来そうです。私の教育精神を徹底させて下さい。礼儀正しく素直な生徒に育てて下さい。ほねおしみをしない、勤勉努力する生徒に、変動

する社会にゆらぐことなく、強い信念をもった女性になるようにと。

先生からたくさんの教訓を残していただきましたので、立派な後輩達が巣立ってくれますように、微力ながら頑張りたいと思います。

どうぞ安らかに、御冥福をお祈り致します。

合掌